

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
総括研究報告書

地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発

研究代表者 麻原 きよみ 聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授

**研究要旨：**

本研究は地域における保健師の保健活動を推進するためのガイドラインとその運用に活用できるツールを開発することを目的として実施した。研究期間3年間の最終年度である本年度は、地域特性に応じた保健活動推進ガイドライン開発のためのⅠ．知識基盤の構築に関する研究として、地区活動に関する調査を実施し、業務体制（地区担当制、業務分担制など）の実態と、地域/地区活動の方法、地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識、地域/地区活動を促進する環境、および関連する要因が明らかとなった。Ⅱ．地域特性に応じた保健活動の実践的方法論の開発と評価に関する研究として、保健活動（地域/地区活動）推進のためのツールとして作成した「地域/地区カルテ」の介入調査を行い、効果を検証すると共に、調査に基づき、Ⅲ．ガイドライン推進のための普及方法の開発、として作成したツール活用と普及のための「教育研修プログラム」と併せて活用方法を明確にした。また、エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」について、保健師による活用可能性について実施・評価した。

以上の研究結果に基づき、「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」を作成した。

**研究分担者**

大森 純子 東北大学大学院医学系研究科 教授

永田 智子 慶應義塾大学看護医療学部 教授

鵜飼 修 滋賀県立大学地域共生センター 准教授

**A. 研究目的**

「地域における保健師の保健活動に関する指針（平成25年4月、厚生労働省健康局長）」では、10の保健活動の基本的な方向性が示され、この中で地域特性に応じた保健活動および地区活動の推進の必要性が示されている。本研究は、これら基本方針に基づく保健師の保健活動が推進されるためのガイドラインとその運用に活用できるツールを開発することである。

研究期間3年間の最終年度にあたる今年度は、地区活動に関する調査から、業務体制と保健活動に関する実態および関連要因を明らかにすること、地域/地区活動推進のためのツールの介入調査を行い、その効果と活用方法を明確化すること、およびエコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」について、保健師による活用可能性について評価することを目的とした。

## B. 研究方法

研究枠組み（図 1）に基づき、本年度は I. 知識基盤の構築として、地区活動に関する調査を実施し、II. 実践的方法論の開発と評価として、地域/地区活動推進のためのツールの介入調査を行った。また、エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」について、実施・評価した。

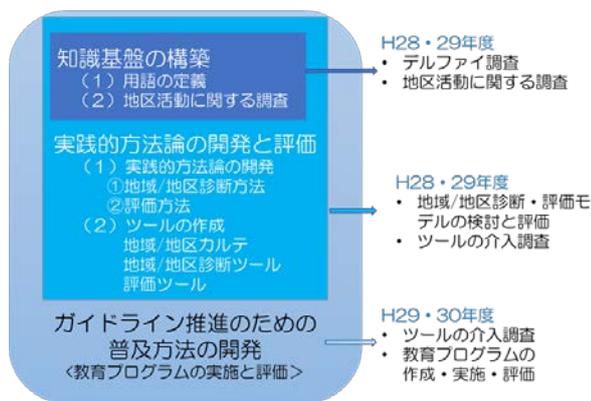


図 1. 研究枠組みの構築

（倫理面への配慮）

地区活動に関する調査、保健活動ツール（地域/地区カルテ）介入研究、および「健康まちづくりワークショップ」の実施と評価について、研究代表者あるいは研究分担者の所属する研究倫理審査委員会に研究計画書審査を申請し、承認を得て調査研究を実施した。

## C. 研究結果

### 1. 地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインのための知識基盤の構築に関する研究

#### 1) 地区活動に関する調査

業務体制（地区担当制、業務担当制など）と保健活動に関する実態、および関連要因を明らかにすることを目的に調査を行った。対象は、保健師管理者および保健師であり、全国の自治体から人

口規模別で 62 自治体 1,570 名をサンプリングし、管理者票の有効回収数は 39（75.0%）、保健師票の有効回収数は 721 名（34.8%）であった。分析の結果、業務体制（地区担当制、業務担当制など）の実態や地域/地区活動の方法・地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識・地域/地区活動を促進する環境、が明らかとなった。また、それらに関連する基本属性（自治体や保健師の基本属性）やアウトカム（道徳的意識やアイデンティティ）が明らかとなり、地域づくり活動の重要性が示された。

### 2. 地域特性に応じた保健活動の実践的方法論の開発と評価に関する研究

本年度は、地域/地区活動推進のためのツールの介入調査を行い、その効果と活用方法を明確化すること、およびエコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」について、保健師による活用可能性について評価することを目的として研究を行った。

#### 1) 保健活動（地域/地区活動）ツール：「地域/地区カルテ」に関する介入調査

地域/地区カルテは 11 の自治体の保健師 105 名を介入群（59 名）と対照群（46 名）に分け、介入群にはツール（地域/地区カルテ）を 6 か月間試行してもらい、評価・修正してもらった。両群に試行前（ベースライン）と試行終了時点（6 か月目）に質問紙にてアウトカム評価（地域/地区活動の方法、地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識、道徳的能力、保健師としてのアイデンティティなど）を実施した。介入群には、試行後 3 か月と 6 か月目にツールの内容と使用方法の適切性に関するプロセス評価（質問紙調査およびインタビュー）を行った。試行前と試行後を分析したところ、すべてのアウトカムで介入群・対照群間で変化量に有意な差は見られなかった

が、群内でベースラインから6ヶ月後の変化をみたところ、対照群では有意に変化した指標はなく、介入群では「地域・住民との一体感」、「保健師としての自信」で有意な向上がみられた。

また、地域/地区カルテ自体の評価（プロセス評価）については、試用6か月後の質問紙調査において、カルテの構成については51.2%が分かりやすいと回答し、日頃の保健活動に役立つかとの問いには、70.7%がフェイスシートが役立つと回答した。さらに、3つのシートの項目について分かりやすさ・重要度等を尋ねた。

フェイスシートでは、項目のわかりやすさは「その他」という記入項目を除いて、70～90%が分かりやすい・普通と回答した。重要度は「住民の構成」「主要な人的・組織資源」「主要な健康関連資源」「地理的特徴」「健康状態とくらし」の順に高く、重要であるとの回答が60%を超えた。「地区の目標・理念」は56.1%、「成り立ち」「文化と社会関係」は39.0%であった。

日々の記録の項目については、85.4%が分かりやすい・普通と回答した。重要度については51.2%がそう思うと答えた。

サマリーシートの項目については、68～95%が分かりやすい・普通と回答した。重要度は「要約（アセスメント）」「課題」「自治体の理念・将来像」「今年度の計画」「短期目標」の順に高く、重要であるとの回答が60%を超えていた。「地区の目標・理念」「次年度の健康課題」は58.5%、「評価（実施したこと）」は51.2%、「地区の人々が活用する健康関連資源や環境」「課題の位置づけ」「評価（改善したこと）」は48.8%であった。

グループインタビューならびに電話ヒアリング、質問紙の自由記載の分析では、業務として地域づくりが認識されていないことや、業務多忙のため地区活動やカルテづくりに手がつかないこと、他の保健師や部署と共有する機会がないと活用されない、地区に出るハードルが高い、といった課

題が語られた一方で、地域/地区カルテの作成を通じて、地区をみる視点が学べた、これまでなんとなく感じていたことに根拠が得られた、これが保健師の活動の本質である、地区というものを意識できた、地区の課題を共有するためのツールになることなどが語られた。

研究結果を踏まえ、Ⅲ. ガイドライン推進のための普及方法の開発、として作成したツール活用と普及のための「教育研修プログラム」と併せて活用方法を明確化した。

2) エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースとした「健康まちづくりワークショップ」の実施と評価

エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」を2回実施し、1回は保健師がファシリテートした。その結果、住民が健康を意識することができると、保健師が地域の特徴や住民の思いに対する気づきを得ることができると、保健師は的確なファシリテーションができ、まちづくりと保健師との連携、地域における健康づくりの推進の可能性を確認することができた。このことから、保健師に活用可能である結果を得た。

### 3. 「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」の作成

30年度の研究結果を含め、3年間の研究結果に基づき、「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」を作成した（添付資料）。

#### D. 考察

平成30年度は、地域特性に応じた保健活動推進ガイドライン開発のためのⅠ. 知識基盤の構築に関する研究として、地区活動に関する調査を実施した。分析の結果、業務体制の実態や地域/地区活動の方法・地域/地区活動による保健師自身および

地域/住民への認識・地域/地区活動を促進する環境が明らかとなり、それらに関連する基本属性やアウトカム（道徳的意識やアイデンティティ）が明らかとなった。これらについて、今まで自治体規模別保健師数を反映した全国規模の調査はみられず、本研究は初めての試みであった。この結果をガイドラインや関連会議、学会等で周知することで、地域/地区活動を促進することに寄与すると考えられる。

Ⅱ. 地域特性に応じた保健活動の実践的方法論の開発と評価に関する研究として、エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」を2回実施して評価し、保健師に活用可能であることを確認した。今後、地域診断から地域づくりまで一貫した保健活動の手法として日常の活動に取り入れることが期待される。

保健活動（地域/地区活動）推進のためのツール「地域/地区カルテ」については、介入調査を実施して効果の評価を行い、介入・対照群の群間に変化量の有意な差は見られなかったが、地域/地区カルテ自体のフェイスシート・日々の記録・サマリーシートの各構成内容について、分かりやすさや重要性が評価できた。分かりにくいとの意見は最も高い項目でも20%台であり、ほとんどの項目について50%以上の保健師が重要であると評価した。また、保健師が抱えている地域/地区活動に対する認識や日頃の保健活動におけるツール活用のための課題が明確になった。地域診断や地域/地区活動の記載等については、多くのものがあるが、エビデンスのあるものはほとんどみられない。本研究は介入調査によってエビデンスのある初めての地域/地区活動推進のためのツールを開発した。また、Ⅲ. ガイドライン推進のための普及方法の開発、として作成したツール活用と普及のための「教育研修プログラム」と併せて活用方法を明確化した。本ツールの周知によって、自治体

保健師に広く活用されることによって、地域全体をとらえる視点や個別の支援と地域全体を連動する活動を促進できると考える。

保健師にわかりやすく、使いやすい「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」を作成したことで、広く自治体保健師に周知され、「地域における保健師の保健活動に関する指針」（平成25年4月）で示された地域特性に応じた保健活動や地区活動の推進につながる事が期待できる。また、本研究結果並びにガイドラインは、保健師の保健活動の目的及び活動の本質を示すものであり、保健師の基礎教育および現任教育のための枠組みとして、また地域保健に関する研究の枠組みとして活用されることが期待できる。

## E. 結論

地域における保健師の保健活動を推進するためのガイドラインとその運用に活用できるツールを開発することを目的として、今年度は、Ⅰ. 知識基盤の構築に関する研究として、地区活動に関する調査を実施し、業務体制や保健活動の実態と関連要因が明らかとなった。Ⅱ. 実践的方法論の開発と評価として、地域/地区活動促進のためのツール、「地域/地区カルテ」の介入研究を実施し、具体的な活用方法を明らかとした。エコロジカルプランニングによる地域診断法をベースにした「健康まちづくりワークショップ」を実施・評価し、保健師に活用可能である結果を得た。3年間の研究結果に基づき、「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」を作成した。

## F. 健康危険情報

情報なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

## 2. 学会発表

なし

- ・永井智子、梅田麻希、麻原きよみ、三森寧子、遠藤直子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、嶋津多恵子、川崎千恵、永田智子、佐川きよみ、小西美香子：地域保健活動における主要用語の定義ーデルファイ法を用いた全国調査ー、第77回日本公衆衛生学会総会  
(2018.10.26)
- ・鵜飼 修,小島なぎさ(2018)地域診断法を活用した健康まちづくりワークショップの開発,日本計画行政学会第42回全国大会研究報告要旨集,日本計画行政学会, pp. 93-96
- ・嶋津多恵子、梅田麻希、米倉佑貴、川崎千恵、遠藤直子、永井智子、三森寧子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、永田智子、佐川きよみ、小西美香子、麻原きよみ：全国自治体における地区担当制および業務担当制に関する業務体制のメリットの認識,第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(2019.1.27)
- ・永井智子、梅田麻希、米倉佑貴、川崎千恵、嶋津多恵子、遠藤直子、三森寧子、江川優子、小林真朝、佐伯和子、大森純子、永田智子、佐川きよみ、小西美香子、麻原きよみ：保健師の地域づくり活動実施と道徳的能力、職業アイデンティとの関連：全国自治体における横断調査,第7回日本公衆衛生看護学会学術集会  
(2019.1.27)
- ・鵜飼修：地域診断法ワークショップを活用した健康まちづくりワークショップの開発,第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(2019.1.26)

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他